

《 論 説 》

manaba による中国語学習の教材作成とその運用

中田 妙葉

1. はじめに

初修中国語の授業に、manaba による自主学習用の教材を、積極的に活用した。このクラスは週2コマ設けられており、その内訳は文法クラスと会話クラスが1コマずつである。筆者は文法クラスを担当している。

中国語のeラーニングシステムの開発は、年々進んでいる。しかしながら、その開発には多額の経費や多くの人材が必要とされる。また、ほとんどのシステムは、学内関係者のみ使用可能であり、外部には非公開となっている⁽¹⁾。また、近年のスマートフォンの普及により、中国語学習の無料サイトや無料アプリなども多数開発されており、楽しく学習できるように工夫が凝らされているものもあるが、これらは独学用であるため、授業の副教材として利用しにくい。それに対し、東洋大学で全学的に導入されているオンラインシステムmanaba ならば、担当者は授業の方針や学生の状況に合わせた教材を、容易に作成し活用することができる。この点が、manaba の大きな利点の一つであるといえる。そこで本稿では、2014年から副教材として利用してきたmanaba の活用法について報告するとともに、履習者のアンケートの分析などを通して、manaba の教育効果と有効的な活用方法を検討する。

(1) 東京外語大言語モジュール (TUFs)、成蹊大学中国語教育プラン“游”、大阪大学 e-Learning、北海道大学 Learning Management などがある。このうち、東京外語大言語モジュール (TUFs) は一般公開されており、外部からのアクセスが可能である。(http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/)

manabaは、学内外のPCやスマートフォンでログインして利用が可能となる。スマートフォン版でも小テスト⁽²⁾の提出は可能である。またスマートフォンでもPC版にすることで全機能が利用可能となる。

2. e-ラーニングを取り入れる問題の所在

本学部の中国語教育現場の問題点を、以下にまとめた。

(1) 授業で行う学習時間の不足

本学部の中国語授業は、専門科目との関係上、初修外国語であるにもかかわらず、1年生は週2回（文法クラス1回、会話クラス1回）の時間のみの設置である。

中国語は、初級学習者は多いが、中級レベルまで進む学習者が少ないといわれる。その主な原因は、発音とピンインの修得で躓くからである。正しい発音をするためには、まず、日本語や英語にない音を聞き取る耳を育てる必要がある。そのため、習い始めた時にこそ、毎日発音の練習をすることが、正確な発音のコツを掴む早道でもある。授業だけの学習時間では、修得するには大いに不足するため、学習不足は自習で補うしかない。

(2) 授業での個人指導の不十分さ

週2回の授業で1クラス30名以上の履習者への個人指導の時間は、1分・2分程度しか割くことができない。未修得の発音を、個々に授業中に指導し把握させるのは、不可能である。全履習者に同様な練習指導をすることと同時に、個々の修得の度合に応じた指導ができるような環境を、構築することが必要である。

(3) 自習用の音声教材の不足

上記で述べたように、まずは音とピンインが結びつく⁽³⁾ように、耳を育てる

(2) スマートフォン版では、添付ファイル名が表示されてしまうので、小テストにファイルを添付する場合、その名には気をつけたい。

ことが必要である。しかしながら、今までの学習環境では、発音修得の自習には教科書に附された音源を聞いて練習するという、あくまでも学習者のやる気に任せるしかなかった。そのため、授業が進むにつれて、外国語学習に慣れている学習者と慣れていない学習者各々の学習方法の違いや、時間のかけ方の違いで、個々の修得の度合も大きくなっていく。これらのことから、外国語学習に慣れていない学習者は、特に自習でも教員がいる環境に近い、つまり音声学習が比較的学習しやすい学習環境を提供することができれば、発音練習もしやすくなるのではないかと考えるのである。

(4) 学習進度・目的に適した補助教材の不足

授業では、文法等々の説明と履習者の理解度の確認にとどまってしまう。限られた時間に、知識を定着させるための練習や文化理解のための紹介は、充分にはできない。また上記したように、市販の教材では、授業の学習内容や進度に合わせた内容を十分に提供することは、困難であると考えている。

3. 教材作成とその意図

(1) 「ドリル」機能

①ピンイン・声調練習

特に上記2 (3) の問題点から、中国音とピンイン表記が結びつくことを目的として作成した教材である。

授業での既習単語の中から、発音・ピンイン表記が困難と思われるものを、課ごとに選出している。ひとつの単語を、3回繰り返し聞けるように加工し、音が耳に残るようにしている。空欄にピンインを記入することで、各発音はどのように表記されるかを確認させ、視覚を通して記憶を図れると考えたもので

(3) ピンインをタッチすると音が出るピンイン学習ツールとして：関西大学中国語教材研究会制作の「中国語基本音節表」(<http://www.ch-texts.org/data/ChineseOnsetu/index.html>) や、「chLang 中国語データベースサイト」に iPad/iPhone 最適版「中国語音節表β版」(<http://www.chlang.org/yinjie/table.html>) 等がある。

ある。「小テスト」の「ドリル」機能を使うことで、学習者が各々の修得度に応じて繰り返し学習できるようにしており、学習者には、満点を取るまで続けるようにと指導している。

第1課 - ピンイントレーニング	
課題に関する説明	第1課の重要単語の中で、比較的難しく感じられるかもしれないという、単語を取り上げました。小テスト、中間テストの勉強に活用して下さい。 解答は提出時に表示されます。間違えたところは、何度も聞いて打ち込んでみましょう。何度も練習していると、音とピンインが合致してきます。
受付期間	2017-05-22 19:46~
提出上限	無制限
選択肢のシャッフル	シャッフルしない
ポートフォリオでの扱い	回答を学生のポートフォリオに追加
正解の公開	提出時に公開する

問題

次の音声をあらわすピンインと声調を表記しなさい。
例)「a」の一声→「a1」「a」の轻声→「a0」
你们「ni3men0」

#19

①

▶ 0:00:00
■
🔊
■

②

▶ 0:00:00
■
🔊
■

③

▶ 0:00:00
■
🔊
■

④

図1 発音・ピンイン練習ドリル

この「ドリル」の問題点は、各問題がシャッフルされないことである⁽⁴⁾。項目の4番目に「選択肢のシャッフル」とあるが、図1上の問題①～④がシャッフルされるわけではなく、「ドリル用問題」が数問用意されている場合に、それらの問題群（#1、#2等）がシャッフルされるにすぎない（図2参照のこと）。図1で使われている問題には、「#19」と表記されているが、19番目に作成された問題という意味である。

■ ドリル用問題管理

まとめ選択・操作 問題作成 インポート > ドリル出題

問題を作成したら、ドリルを出題してください。ドリルでは、複数の問題をランダムに出題する事が出来ます。
 ※ドリルで組み合わせる問題の合計点は、同じ点数に設定してください。

問題No.	タイトル	使用されているドリル	最終更新日時	合計点	管理
#1	1. ピンイン表記トレーニングー母音	2. 1. ピンイン表記トレ...	2017-04-19 14:32	5	
#2	2. ピンイン表記トレーニングー母音	1. 2. ピンイン表記トレ...	2017-04-19 14:32	7	
#5	3. ピンイン表記トレーニングー子音と...	5. 3. ピンイン表記トレ...	2017-04-27 01:20	10	
#19	第1課-ピンイントレーニング	18. 第1課-ピンイントレ...	2017-05-24 18:45	10	

図2 ドリル用問題

②文法の練習問題

授業では、文法説明後に学習者の理解度を把握するために、教材の練習問題を回答してもらおうが、学習の定着を図るためにはできるだけ多くの問題を解き、理解できていないところを自ら気がついてもらうことが望ましい。そのため、宿題として教材の練習問題を「ドリル」に載せ、各自満点を取るまで解いてもらい、次の時間に解けなかった問題を質問してもらおうようにすることもあ

(4) 田中雅敏氏も、小テスト課題の限界として、選択式問題の選択肢や問題文が入れ替わらないことを指摘している。「表示するごとに選択肢の並びをランダムに入れ替える」といった変化が欲しいところであるが、現時点での最新バージョン（1.6）ではそこまで対応していない。（「manabaによるドイツ語eラーニング環境の構築」、『ドイツ語情報処理研究』22（2012）、32頁）「選択式問題で選択肢の提示順序をランダムにし、問題文そのものをランダムに提示するなどのダイナミックさも欲しいところである。」（同論文、35頁）

日本語訳や正答が複数存在する問題を、「ドリル」機能で作問することは難しいが、「並び替え」や「択一・複数選択」などの問題には適している。(図3参照のこと)

【宿題】第八課 練習02	
課題に関する説明	【宿題】です。来週の授業前までにやっておきましょう。答えを見ても、わからないところは、授業中に聞いて下さい。
正解の公開	提出時に公開する

問題

日本語と同じ意味になるように、次の中国語を並び替えましょう。

#11

1, ちょっと待って下さい。

項目 

1. 下 2. 一 3. 等 4. 请

回答

ここに回答が表示されます

2, もう一度読んで下さい。

項目 

1. 遍 2. 请 3. 一 4. 再 5. 读

回答

ここに回答が表示されます

図3 入れ替え問題

② -1 eラーニングを用いる以前の問題点

eラーニング学習ができなかった時には、宿題は授業のみで回答するしかなかった。問題となるのは、宿題を怠った履習者の処遇である。まず回答する際に時間がかかる。宿題をやっている履習者に無駄な時間ができる。更に、宿題を怠りかつ回答もすることのない履習者は、解答をただ写すだけという有り様になってしまう。30人以上の履習者を一人ずつ確認していたこともあったが、学習内容を定着させるための練習という、本来の学習意図が果たせないこ

とが問題であった。

② -2 eラーニング利用の改善点

eラーニングを利用することで、上記の問題を解決することができた。ドリルにすることによって、学習者は自分のペースで何度も解き、解いた後で表示された解答と照らし合わせて、自分の理解できていないところを自覚することができる。理解できなかった箇所を授業で挙げてもらうので、質問された内容に時間をかけることができる。また、「小テスト管理」画面の「管理」からアクセスできる「提出状況一覧」には、履習者の受験回数や、最高点数が提示される（図4参照のこと）。これより、各履習者の学習状況を把握することが容易にできるため、未受験の履習者に声かけをするなどの対処ができる。

ただし、この宿題方式は1年生の後期から導入している。1年生前期は各自の発音をチェックし、発音学習を促進するためにも、中国語で答える問題はすべて授業において、口頭で発表してもらうことにしている。

【宿題】第八課 練習02：提出状況一覧

コース	氏名	学籍番号	受験回数	合格結果	最高点	平均点	最終受験日時
中国語IAB●	田●●●紀	●●●●●●	1	-	2	2.00	2017-01-22 20:51
中国語IAB●	田●●●巳	●●●●●●	未提出	-			
中国語IAB●	田●●●花	●●●●●●	2	-	5	4.00	2016-12-25 19:08
中国語IAB●	田●●●葉	●●●●●●	4	-	4	3.25	2016-12-20 13:20

図4 提出状況一覧

② -3 「ドリル」機能の問題点

繰り返しになるが、この「ドリル」機能（「小テスト」も含む）では問題の選択肢のみならず、各問題をシャッフルすることができない。学習者にとっては、正解を記憶しやすい環境であることは否めない。ゆえに、学習者が弱点を克服するために、何度も利用するに最適な形とはいえない。

また、誤答の場合でも解答が表示されてしまうことは、学習者は正答誤答を知るだけに止どまってしまい、問題を時間かけてとり組むことができない。学習者に理解不足のポイントを認識させるには、十分な仕組みとはいえない。望

ましい機能とは、正答の場合だけ解答が表示され、誤答の場合には解答は表示されないものである。そして、誤答が一定数を越えた場合には、ヒントが表示される等の機能があると、学習者の理解不足の自覚を促すだけでなく、その補足ができ、学習者は自学の有用性を感じることができるであろう⁽⁵⁾。

さらに、解答表示の設定は問題ごとにできることが望ましい。なぜなら、ピンイン問題では、学習者に音とピンインの摺り合わせをしてもらう必要がある。間違えていたところをすぐ正解と照らし合わせられると、間違った感覚を早く認識でき、正しい知識を記憶させることができると考える。それに対し、文法問題は理論的に正解を導くことが大切なので、誤答の場合解答は表示されないことで、基礎文法や単語の品詞を再確認しながら正解を導くという学習行為から、文法の知識を定着させることができると考えるのである。

(2) respon のアンケート機能（自由に問題を設定）

出席を取るための「出席カード」機能を使用した一例である。授業では、履習者に各自の名前の中国語の読み方を耳から覚えてもらうため、中国語名で点呼を行っている。そのため、出席を取る機能は必要がない。しかしこの機能は、授業の途中、または最後に、その項目内容をどのくらい理解したか、指導者と履習者相互が確認のための「小テスト」として、便利に利用している。この「小テスト」が、上記の「小テスト」機能に比べて便利な点として、2点あげることができる。

(i) 作問が簡単にできるので、ネットに繋がっていれば、授業中でも出題することが可能である。これにより、指導者は、履習者が現状ではどの程度理解しているかを、数分で把握することが可能である。

(ii) 選択問題であれば、円グラフや棒グラフで表示され、回答ごとの人数

(5) 原田寿美子氏の報告によると、CHieruの多言語対応eラーニング用システムSMART-HTMLで作成したものでは、上記の機能が備わっているようである。(原田寿美子「基本文型学習へのeラーニング利用——中国語基礎クラスにおいて——」、『名古屋学院大学論集 言語文化篇』第24巻2号、53-56頁参照のこと。)

と、全回答者における割合が表示される。（図5参照のこと）

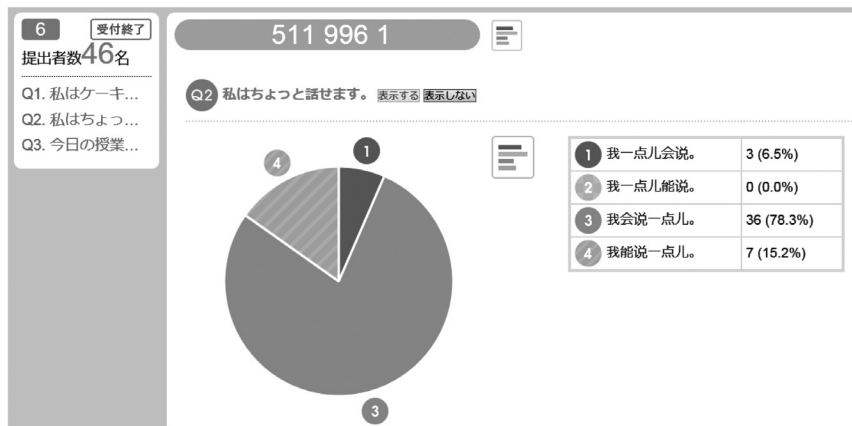


図5 respon での「小テスト」

また、「小テスト」の最後には、必ず自由記入欄を使いその日の授業のアンケートを、「今日の授業について、不明な点や感想がありましたら記入してください。」という設問で行っている。図5の左側に表示されている「Q3.今日の授業…」がそれに当たる。アンケート内容は図6のようにして示される⁽⁶⁾。

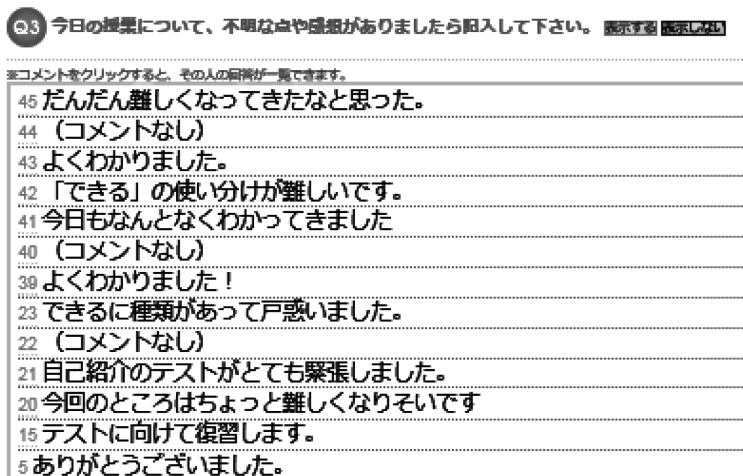


図6 respon でのアンケート結果

さらに、最近表示機能が向上し、アンケートのコメントをクリックすると、当該コメント者のすべての回答が表示されるようになった。これより、コメントの様子から当該履習者の理解度を、以前より容易に把握できるようになった。

①の45番のコメント者は「難しくなってきた」と不安な感想を残しているので学習理解度を「小テスト」の回答からみてみると、Q1の「想」と「和」の文法理解はできているが、Q2の回答からは「会」と「能」の理解が不十分であることがわかる。それに対して②の39番のコメント者は、「よくわかりました!」と元気のいいコメントを残しているだけでなく、Q1・Q2共に正解であることから、実際に助動詞「想」「会」「能」の基本内容は理解できていることがうかがえる。

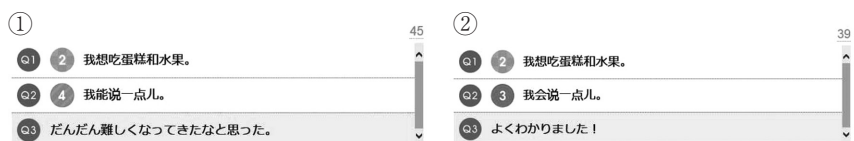


図7 アンケートのコメントから、各コメント者の全回答を表示する

学期末のみに限らず、各学期3・4回程度でも上記のアンケートを行うことで、履修者の学習上の不安を汲み取って、その対策としての内容を授業に組み込むという、建設的なことが図れる。また、たとえ感想を指導者に伝えるだけでも、履習者の安心感が図れるようである。その理由として、毎学期末に行う、全クラスのアンケート結果をみると、アンケートを頻繁に行っているときは、目立ったマイナスイラストコメントが見られないことがあげられる。

(6) 図6では、紙面の関係上コメントがない行を適度に削除してある。本来なら回答者すべてのコメント状況—コメントがない場合は(コメントなし)として—が示される。

（3）コンテンツ

① トップページを活用

最もよく使う manaba の機能が、「コンテンツ」である。数年前から「コンテンツ」をトップページ表示ができるようになったため、履修者に周知させる必要がある内容—各テストの実施日や範囲、宿題の提示、課題の内容や提出日—から簡単なお知らせまで、事あるごとに掲載している。これは、履修者の未提出や準備不足が、Toyonet-ACE のコース内容を確認していれば、「知らない」ことが原因で起こらないようにという配慮である。

期末テスト範囲

水曜クラスは、来週の7月20日、金曜クラスは、7月22日に期末テストです。

※課題はテストが終わってからは受けつけませんので、テスト前に出しましょう。

期末テスト学習範囲

【筆記】

会話編 第3課と第4課（トレーニング3、4を含む）

◎単語の問題

1, ピンインの書き取り（第3課、第4課の重要単語から出題）

※ 1. 第4課の単語を、課題として「ドリル」にUPしました。

2. 第3課のドリル(3つ)を、明日の0:30には終了し、土曜日には同じ内容を「期末試験ピンイン対策練習」として、UPします。今までのドリルの問題がランダムに出題されますので、どの問題も満点取れるように、何度も挑戦して下さい。

2, 中国語の漢字の書き取り

◎会話の問題

1, ピンインを中国にし、自分の答えを中国語で回答する。

2, 日本語を中国語にする。

リスニング

発音されたものと同じピンイン表記を4つのなかから一つ選びます。

ToyonetACEにあげてあるピンイン表を使って、正しい音を出す練習をしてみましょう。

来週の授業:

【宿題】第4課「トレーニング4」（水曜4限 - 第3課リスニング、金曜5限 - 第4課リスニング）

第4課の「トレーニング4」の答え合わせをしてから、テストに入ります。

（水曜4限目のクラスは第3課のリスニング、金曜5限のクラスは第4課のリスニングの答え合わせも行います。）

図8 トップページを使って期末テスト範囲等を掲示

特別の周知事項がない場合には、トップページには音声を上げることにしている。

②音声のアップロード

manabaで最も活用している教材が、教科書用に作成した音声である。これをアップロードし、学習者に音声を利用しやすくし、学習効果を図った。最近の学習者は、音声媒介としてCDはつかわず、音声はダウンロードをするのが一般的なため、教科書もそれに習い、出版社のHPから全音声をダウンロードできるようになっている。しかし、履習者が音声をダウンロードすることはあまり期待できないため、コンテンツに毎課ごとの音声をあげている。(図9参照のこと。トップページに第四課の①～③の課文の音声をのせている画像である。)



図9 トップページにアップロードした学習中の課の音声

そして、eラーニングを使い始めてからずっとアクセス数が一番多いのも、

各課ごとの音声である。図10は今年度前期の、あるクラスの記録である。毎年
の傾向であるが、「発音」のアクセス数が最も多く1211回、次に711回の「第四
課」の課文、「第一課」「第三課」も600回を超えており、他の音声データや連
絡事項と違い、履習者がよく利用していることが見て取れる。

コンテンツ管理

コースコンテンツ

コンテンツ作成 インポート

タイトル	アクセス	公開/非公開	ページ数	最終更新日時	順序	管理
第一課	658	公開 非公開	2	2017-05-24 18:38	▼	⚙
春暁	109	公開 非公開	1	2017-05-10 20:03	▲▼	⚙
発音	1211	公開 非公開	5	2017-04-26 22:37	▲▼	⚙
コースストップ用コンテンツ	86	公開 非公開	1	2017-04-10 13:02	▲▼	⚙
非公開 - 発音	86	公開 非公開	8	2017-04-17 14:26	▲▼	⚙
ピンイン表	326	公開 非公開	1	2017-08-16 01:11	▲▼	⚙
第二課	364	公開 非公開	2	2017-06-02 01:11	▲▼	⚙
e-ラーニング ログインURL	32	公開 非公開	1	2017-06-06 00:36	▲▼	⚙
第三課	607	公開 非公開	2	2017-06-13 14:53	▲▼	⚙
中間テスト解答	24	公開 非公開	1	2017-06-20 20:30	▲▼	⚙
第四課	711	公開 非公開	2	2017-07-17 19:06	▲▼	⚙

図10 コンテンツ管理

（４）「スレッド」機能

①進捗状況の連絡

上記したように、1年生の中国語の授業は、「文法」と「会話」が1セット
となり、共通のテキスト1冊で行われている。学習者は、「文法」の授業で学
んだ文法や単語を、次の「会話」の授業ですぐにスキット練習、応用練習に生
かすことで、文法が実際の会話に直結すると感じてもらうことが、目的の一つ
である。この授業体制で必要なのが、担当者同士が、相手の授業の進捗状況を
把握することである。従来は、「進捗表」を作り、授業終了後に書き込む、ま
たはメールで連絡し合うという方法をとっていたが、2016年度からは「法学部
中国語教育資料」という中国語教員専用のコースを設置し、資料や情報を共有
できる環境を作った。（図11参照のこと）

その他の曜日

コース名	年度	開講情報	担当教員
★  高等教育推進センター(研修会等)	9999	   	高等教育推進支援室
★  TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)	2999	   	国際連携本部
★  法学部中国語教育資料	2999	   	法学部
★  教員活動評価	2999	   	学長事務課
★  カクチカサブリ	2999	   	東洋大学

図11 設置された「法学部中国語教育資料」コース

これより、「スレッド」機能を作って、ペアの教員に、各クラスの授業内容や進捗状況を、比較的詳しく報告できるようになった。また、各スレッドの右下にある「レス」機能を使って、個々の内容に返事を返すことも可能であるため、「進捗報告」と「相談」が混在せずに、スムーズなコミュニケーションがはかれる。図12のスレッド番号「16」は、スレッド番号「14」の内容に対する返信（「レス」）である。

②従来の連絡方法と比べた有用性

紙媒体より便利な点は、記入する場所を選ばないこと、文字制限がなく閲覧者が制限されているため詳しく記入することができること、などがあげられる。

メールでもほぼ同じことができるが、メールに添付するには大きすぎる動画資料等を、このコースの「コンテンツ」にあげることで共有することが可能なため、「スレッド」機能以外に「コンテンツ」機能が、資料の共有に大変役立っている。また、資料が一所に集められていることで、検索する手間がかからない。そして、資料は何度でもエクスポートして編集し、アップロードすることができるので、資料を数人で練り上げていくことも容易に行える。















17	⑥ ● 5月24日
	<p>①先週やっと第一課の①と②を復習し、四組を教壇のところきてもらい、みんなの前で暗誦してもらいました。 ②第一課の③と④をやりました。 「都」の使い方、「太〜〜ア」と「不太〜〜」の違い、「喜欢」の使い方を用例を挙げて説明しました。 ③131頁の「知りたい言葉」を教え、自分の好きな動物についてペアで話す練習をさせました。 你喜欢什么动物？をついでに教えました。</p> <p>④ 会話③と④の暗記を宿題にしました。</p>
●●●●●  2017-05-24 18:26 	
	
16	Re:Re:⑤ ● 5月17日
	<p>> 14</p> <p>クラスが多いですから、私もよく間違えます。気こしないでください。 また文法事項について用例を挙げながら説明するよう、念頭に置きます。</p>
●●●●●  2017-05-24 18:25 	
	
15	⑥ 中田 5月22日
	<p>①声出しに、数詞とあいさつの言葉を一人ずつ言ってもらいました。どうしても「请多关照」「认识你很高兴」などはつかえるので。</p> <p>②春暁の練習。 ③教科書で文法③の練習。 ④「不太」と「程度副詞」の説明と練習問題。 ⑤文法④を使って、「都」の練習。 ⑥第二課の「是」の分の肯定、否定、疑問文の説明。 ⑦⑧と⑨の読みの練習。意味の確認は⑧のみできました。 （「指示代名詞」はまだ理解していません。） このクラスは、声量が少なく、心配になるのですが、綺麗に発音する学生が多いですね。 来週は小テストをします。 再来週は、中間テストの予定です。</p>
中田 妙葉  2017-05-22 23:08 	
	
<p>全44件  1 2 3 4 5  次へ > 全件（印刷用） > スレッド一覧に戻る</p>	

図12 授業内容の報告

コンテンツ	
音声データ-コンテンツ	全1ページ 2017-06-20 18:24
会話クラス用資料	全1ページ 2017-07-20 14:46
授業進捗状況の情報交換方法について	全1ページ 2017-04-11 23:57
IAA/BA クラス6~9 シラバス対応表	全1ページ 2017-05-29 20:21

図13 コンテンツにあげた共有資料

4. 教育実践における成果

(1) 学習意欲の継続

学習の開始当初には、目新しさから発音練習に意欲的に取り組む学習者は多数見受けられるが、前期末には発音やピンインに苦手感をもってしまい、音声に取り組まなくなる学習者が増加する。しかし今年度は、図10の「コンテンツ管理」の「第四課」の音声で、2クラスで411回アクセスされていることから、音声未利用者が少ないということが、いえるであろう。これより、文法学習といえども、音声を使った学習が必要であることを感じている学習者が、多かったことが伺える。

今年度は例年と異なり、早くから「ピンイン練習ドリル」を作成し、履修者に取り組んでもらった。教科書を見てよい代わりに、解答を表示せず、受験者の答えが正答か誤答かのみが表示されるように、少々難しい設定を行った。それにもかかわらず、満点を得るために十何回も取り組んでいる履修者もいた。ドリル利用者も、前年前期末は5割程度だったのであるが、今年度は下記のアンケートを見ると、「よく使った」「時々使った」が8割を越えていることから、学習意欲を比較的継続できた履修者が増加していることが伺える。

(2) リスニングの向上

例年前期授業で、中国語検定準4級のリスニング問題中のピンイン表記の問題計10問を、履修者に解いてもらっている。1問1点計算で、例年全履修者(120~140名)の平均が6割台であるが、今年度は7.16の平均点であった。今年度の履修者は、130名程度である。

さらに、後期の1回目の授業で、中国語の全発音から比較的難しい10個の音を選び、ピンインの書き取りのテストを行った。1問1点計算で、各クラスに10点満点または9点の得点者が1割近く存在した。これは、eラーニング教材を継続して利用することで、ピンインの学習時間が増加した結果があらわれているのではないだろうか。

(3) 中国語検定受検者の増加

検定対策問題を、eラーニングには取り入れてはいないが、この数年、前後期で計4回ほど、準4級のリスニング問題を行うことを続けてきた。本学部の履修者の特徴の1つとして、語学学習に意欲的な学生ほど、自分の語学能力を低くみがちで、語学検定受験には消極的である。そのような履修者に、実際のリスニングの問題を解き高得点を得ることで、自信をつけてもらいたいというのが目的の一つである。5年前までは、検定試験を受験した学生は、学習2年目で2・3名ほどであったが、3年前から5・6名に増え、今年度の前期だけですでに10名ほどになっている。

語学能力に自信をつけ、意欲を持つ学生が増えたのは、eラーニングでの学習時間の増加とその学習効果も、一端を担っているのではないかと考える。

(4) 個人指導の改善

eラーニングでの音声を用いた自習学習環境の構築は、履修者の学習進度に合わせた学習内容を提供できるようになった。アンケートによると、ピンイン習得に役立ったと考える履修者は、9割に及んでいる。学習者は課題の回答を通して、理解不足ポイントを自覚し、教員に指導を求めるなどで、理解を深め

られると、満足しているようである。音声練習をeラーニングで練習しやすい環境に構築することで、個人指導で補う部分が改善されたと思われる。

(5) eラーニング学習の必要性の認識

後期の初めの授業で、前期のeラーニングを副教材として利用した学習方法に関してのアンケートを取った。85%以上の履修生が、eラーニングを副教材として利用したいという結果であった。同時に利用したいと回答した者は、eラーニング教材には学習効果があると認識していることがわかった。この中には前期「利用しなかった」、「時々しか利用しなかった」と回答した履修者も含まれている。

Toyonet-ACEを中国語I AAの授業の副教材として使ったアンケート

(実施日：2017年9月 対象者：29年度中国語I AA履修者 回答者：116名)

質問項目	よく使った	時々使った	余り使わなかった
小テストの「ドリル」を使用しましたか？	45%	37%	18%
	役に立った	ある程度役に立った	役に立たなかった
「ドリル」は復習に役立ちましたか？	60%	25%	15%
「ドリル」はピンイン習得に役立ちましたか？	58%	32%	10%
	はい		いいえ
これからもToyoNet-ACEを取り入れた授業を望みますか？	86%		14%

ToyonetACEを使った学習の感想で、当てはまる項目を選んでください *複数回答	回答数
1. 復習に役立った	39人
2. 自分のペースで勉強できた	22人
3. 繰り返し勉強できるのが良かった。	27人
4. 自分の弱点が理解できた	12人
5. パソコンで勉強するのが楽しかった	1人
6. スマホで勉強できるので便利だった	35人

5. 今後の課題

アンケート結果より、ほとんどの履修者は、eラーニング教材に学習効果があり、利用することで語学能力を伸ばしたいと思っていることがわかった。これは、今後のeラーニング教材の改善を進める上で、大きな原動力となるだろう。そして、これらの回答者に対する教材として、2つの方向性が必要であることも分かった。

1つは、「利用した」との回答者に対する教材作りである。授業内の学習にとどまらず、応用力をつける教材提供が必要であろう。履修者からアンケートに要望としてあげられた「中国語学習に有用な映画などの紹介」なども、成長・発展性をもたせるに有用であるが、その紹介の仕方や学習教材としての加工などが課題となってくる。

もう1つは、「利用しなかった」「時々利用した」という消極的な利用者に対する教材作りである。アンケートにはその理由を記入してもらったが、「Toyonet-ACEを開くのがめんどろだった」という、「やる気の問題」といえる意見がほとんどだった。中には「勉強するときスマホを横に置かない、雑音が多いので」という「面倒さ」とは異なる意見もあり、これらの履修者に対しては、意見を聞きながら良い形をできるだけ早く提供したいと思っている。

反対に、14%の履修者がeラーニング学習は必要ないと答えている。その意見として「教科書を用いた勉強の方が好き」という内容が、数件見られた。語学学習に音声が大切だという認識をもつことなく、今に至っていることと推測される。これらの学習者には、eラーニングを使った学習方法のみならず、eラーニングは教科書に対するものでなく、あくまでも副教材であるというその役割や意味を、理解させる必要があるようだ。

アンケート結果を更に注意して見ていくと、「よく利用した」「役立った」と回答している履修者は、ほぼ成績上位者であった。(Toyonet-ACEのアンケート機能では、名前が示される)これより、利用数と成績との関係性の有無を、学習者にデータで提示することができれば、Toyonet-ACEを利用した学習は

効果があることを、学習者に理解させる一翼になるのではないかと考えている。

履修者それぞれの異なる理解状況の把握を進め、それぞれの段階にいる学習者の発展を考えた教材が、必要ではないかと考えている。今までの学習定着度の高い学習者の能力向上効果を図った教材作りのみならず、学習習慣のない学習者にこそ、eラーニングは有用だと考えているからである。引き続き、そのような履修者が取り組みやすい環境の構築を、レベルの様々な学習者それぞれに対するeラーニングの有効な活用を、検討していきたい。

主要参考文献

- 郭海燕「初心者に学習しやすい中国語 e-Learning 教材」IT 活用教育方法研究 第10巻 第1号、2007年11月
- 田中雅敏「Moodleによる独検対策 eラーニング環境の構築とその運用」東洋法学 第54巻 1号 2010年7月
- 田中雅敏「manabaによるドイツ語 eラーニング環境の構築」ドイツ語情報処理研究 22 2012年
- 許明子、田中裕祐など「〈報告〉manabaを活用した中級クラスの自煎報告：運用力向上を目指した文法クラスの実践を通して」筑波大学留学センター日本語教育論集 30号 2015年2月
- 原田寿美子「基本文型学習へのeラーニング利用—中国語基礎クラスにおいて—」名古屋学院大学論集 言語文化篇 第24巻2号 2013年3月

—なかた わかば・法学部准教授—